

普通期水稻【元気つくし】《ヒノヒカリ》管理情報 N0.2

J A 粕 屋
北筑前普及指導センター

1. 生育概況

7月上中旬の平均気温は平年より 1.6℃高く、降水量は平年比 218%と非常に多く、日照時間は平年比 90%となりました。大雨が続いた影響で深水となり、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の食害が目立つほ場がみられます。

7月21日の現地生育調査の結果、【元気つくし】《ヒノヒカリ》ともに、平年に比べ草丈は長く、茎数（分げつ）はやや少ない傾向です。特に、6月中旬以降の田植えで分げつが不足しているため、分げつ数が確保できていないほ場では、中干し開始を遅らせましょう。

品種	田植時期	現地調査結果(7/21)		穂肥目安時期 (出穂前 20~18日)	出穂期の目安 (平年)
		茎数(分げつ) (本/株)	草丈 (cm)		
【元気つくし】	6月 4日	23~25	82	7月 24~26日頃	8月 13日頃
	6月 12日	18~20	78	7月 28~30日頃	8月 17日頃
	6月 18日	16~18	64	8月 1~3日頃	8月 21日頃
	6月 25日	14~16	47	8月 3~5日頃	8月 23日頃
《ヒノヒカリ》	6月 4日	19~21	73	8月 4~6日頃	8月 24日頃
	6月 12日	17~19	69	8月 5~7日頃	8月 25日頃
	6月 18日	16~18	50	8月 7~9日頃	8月 27日頃
	6月 25日	13~15	47	8月 9~11日頃	8月 29日頃

2. 穂肥

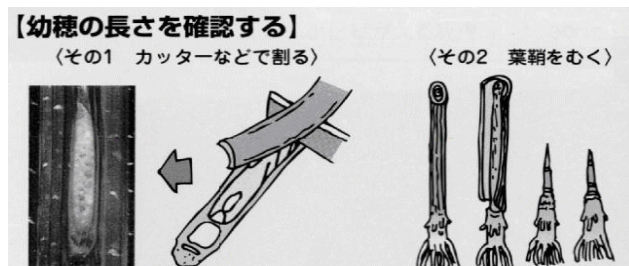
- ① 基肥に「緩効性(一発)肥料」（LP2000、有機特栽米エムコート077号等）を施用した場合
→ 穂肥施用は必要ありません。ただし、葉色が極端に薄い場合は各プラザにご相談ください。
- ② 基肥に「速効性肥料」（くみあい化成ベスト444、有機特栽米基肥017号等）を施用した場合
→ 施用時期は、出穂前 20~18日（1.生育概況参照）、幼穂長 2~5mm、葉色【元気つくし】3.5~4.0、《ヒノヒカリ》3.0~3.5が目安です。下記のA~Cのいずれか1体系を選択してください。

品種	肥料名・施用量（A~Cのいずれか1体系を選択）
【元気つくし】	A. NK化成2号：1回目 10kg + 2回目 10kg/10a (※1回目の施用から7日後頃に、2回目を施用) B. エムコート206ワンショット：15kg/10a C. 有機特栽米追肥047号：30kg/10a
《ヒノヒカリ》	A. NK化成2号：15kg/10a B. エムコート206ワンショット：13kg/10a C. 有機特栽米追肥047号：23kg/10a

※なたね油粕を使用する場合は、施用時期を上記目安より更に 10~7日早め、施用量は【元気つくし】50kg/10a、《ヒノヒカリ》45kg/10aとします。

★穂肥施用のポイント

- 右図を参考に、各ほ場で幼穂長を確認して下さい。
- ほ場の地力・水稻の葉色により、穂肥の施用時期・施用量を調整して下さい。
- 葉色が濃いほ場（4.0以上）は、倒伏の恐れがありますので、穂肥の散布時期を遅くする、または施用を止めましょう。



3. 水管理

(1) 中干し後 ～ 穂肥の時期

中干し終了後はいきなり水をためず、走り水程度とし、稲を徐々に水に慣らしましょう。

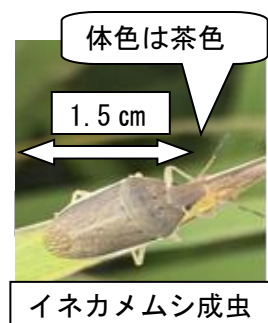
その後は、再び【**間断かん水**】を行いましょ。また、水の溜め過ぎ・乾かし過ぎは避けましょ。

(2) 穂肥の時期 ～ 出穂の時期

水稲が最も水を必要とする時期のため、水を切らさないようにしましょ。

4. 病虫害防除

籾屋管内で水稲病虫害「イネカメムシ」の発生が増加しています！イネカメムシは**茶褐色のカメムシ**で、出穂期に籾を吸汁し、不稔や斑点米を引き起こします。基幹防除を徹底し、被害粒を出さないようにしましょ。発生が多い場合は補正防除も検討しましょ。また、畦畔雑草はカメムシが侵入する中継地点となるため、出穂2週間前までに必ず水田周辺の畦草刈りを行いましょ。



【基幹防除】・・・いずれかの体系で必ず防除を実施しましょ。

ウンカ・カメムシの防除適期は出穂期～穂揃期頃、穂いもちの防除適期は出穂始め頃。

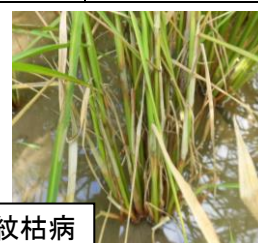
対象病虫害	体系・農薬名	処理量(10a 当たり)	使用時期	使用回数
いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	[粉剤体系] ダブルカットバリダトレボン粉剤3DL	3～4kg	穂揃期まで	2回以内
	[液剤体系] ダブルカットフロアブル モンセレンフロアブル エクシードフロアブル	[希釈水量 140ℓ] 140ml (1000倍) 93ml (1500倍) 70ml (2000倍)	穂揃期まで 収穫21日前まで 収穫7日前まで	2回以内 4回以内 3回以内
	[粒剤体系] ゴウケツモンスター粒剤 [豆つぶ剤] ワイドパンチ豆つぶ	3kg 250g	出穂5日前まで (但し、収穫45日前まで) 収穫35日前まで	1回 1回

【補正防除】イネカメムシ多発の場合・・・①出穂期および②出穂期+7日後の2回防除が基本です。

対象病虫害	体系・農薬名	処理量(10a あたり)	使用時期	使用回数
カメムシ類 ウンカ類	[粉剤体系] エクシード粉剤 DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内
	[液剤体系] エクシードフロアブル	[希釈水量 140ℓ] 70ml (2000倍)	収穫7日前まで	3回以内
	[粒剤体系] スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで	3回以内

★用語の説明

- ・「出穂期」：全莖数の40～50%が出穂（穂先が現れること）した日（田植時期毎の平年出穂期は〔1.生育概況〕を参照のこと。）
- ・「穂揃期」：全莖数の80～90%が出穂（穂先が現れること）した日（概ね出穂期の数日後が穂揃期。）



- ・籾屋管内では近年「紋枯病」が増加しています。前年発生したほ場では病原菌（菌核）が土の中で越冬し再発するため、モンセレン（粉剤・フロアブル）またはモンガリット粒剤等で補正防除を行いましょ。防除は、出穂の10日前までに行うことが重要です。
- ・今年は梅雨が長く降水量も多いため葉いもちの発生が懸念されます。発生を確認した場合は早めに補正防除を行いましょ。
- ・スタークル剤（粉剤・液剤）を散布する場合は、収穫の7日前までの使用とし、ミツバチへの危害防止のため、稲の開花期の散布は避けて下さい。

農薬安全使用のポイント

- ①散布前は農薬ラベルを確認しましょ
- ②散布時は近隣作物への飛散に気をつけましょ
- ③散布後は散布器具を洗浄しましょ。
- ④防除履歴を記帳しましょ
- ⑤散布作業は暑い日中を避け朝夕の涼しい時間帯に行いましょ。